

# World Watching 273

ワールド・ウォッチング



## 英国の脱炭素化に貢献する エネルギー港湾 ミルフォードヘブン港



川合 淳

公益社団法人  
日本海難防止協会  
ロンドン事務所



はじめに

英国政府は、主要経済国で初めて「ネット・ゼロ戦略」を発表し、2050年までに温室効果ガスの排出を正味ゼロにするための道程を示した。ロシアのウクライナ侵略によるエネルギー価格の高騰やインフレ圧力などの経済状況の大きな変化はあるものの、産業における脱炭素化が「ネット・ゼロ戦略」の中核をなすものであることに変わりはない。

本稿では、担当者へのインタビュー及び公開情報の分析に基づき、英国最大のエネルギー港であるミルフォードヘブン港 (Port of Milford Haven) 及び同港を中心に形成されるミルフォードヘブン水路 (The Milford Haven Waterway) における脱炭素化の取り組みについて紹介したい。日本で進行中のカーボンニュートラルポートへの取り組みの参考になれば幸いである。



港湾の概況

ミルフォードヘブン港は、Trust ports信託港湾 (2022年11月号World Watching270参照) であり、ロンドンから西に約400km、ウェールズ地方の西端でアイリッシュ海の南、ケルト海に面しており、液体、バルク、ブレイクバルク、重量貨物を扱う英国最大のエネルギー港として知られる。また、大西洋貿易ルートやケル

ト海の発電施設への近接性が高く、喫水22.0mまでの船舶に対応可能な岸壁を擁し、重工業クラスターを形成、近年は、ウォーターフロントの開発とともに、再生可能エネルギーへの取り組みに力を入れている。

年間取扱貨物量は3,000万トンに達し、同港から石油・ガスパイプラインや送電網により英国各地にエネルギーが送られている。特にガスについては、英国のガス需要の30%を供給している。



ミルフォードヘブン水路  
(The Milford Haven Waterway)

同港は、自らを「水路の守護者 (Guardian)」と呼び、同港を中心として水路には、ミルフォードヘブン水路と呼ばれるエネルギー産業クラスターが形成されている。

このWaterwayは、湾口から22マイル (約35km) に及ぶ水路 (湾) であり、ここにはヨーロッパ最大のLNG火力発電所があるほか、浮体式洋上風力発電、波力発電、潮力発電等の海洋再生可能エネルギー基地の誘致を進め、多様かつ高スキルのサプライチェーンが発達している。



ミルフォードヘブン水路 (The Milford Haven Waterway) のエネルギー関連施設



ミルフォードヘブン水路



## 脱炭素化への取り組み

同港は、ミルフォードヘブン水路における産業の脱炭素化およびネット・ゼロを実現する上で主要な役割を果たしている。

同港の担当者は、「この地域の海運とエネルギーのインフラは、既存のブラウンフィールド・サイトの存在とともに、過去60年間に数十億ポンドもの投資を呼び込み、今日のエネルギー産業クラスターを形成した。このクラスターは、特にエネルギー安全保障の面で英国にとって戦略的に重要であり、ウェールズの5,000人以上の雇用と4億ポンドのGVA (gross value added: 粗付加価値) を支えている」、また、「再生可能エネルギーに関連する大規模な開発の可能性がある。このクラスターは、英国のネット・ゼロの挑戦を実現する上で極めて重要な役割を担っており、経済成長を促しながら、移行を加速させるエネルギーサイクル全体のソリューションを提供することができる。そしてブルーとグリーンの水素、浮体式洋上風力発電等の海洋再生可能エネルギー、持続可能な代替燃料、CO<sub>2</sub>輸送、エネルギー貯蔵に焦点を置き、鉄道やパイプラインなどの既存の資産や蓄積されたスキルを再活用 (repurpose) することで、英国の未来に貢献していく」と説明した。



## ペンブローク・ドック・マリーナ (PEMBROKE DOCK MARINE)

ペンブローク・ドック・マリーナとは、民間部門が主導し、ペンブロークシャー州 (County of Pembrokeshire) が支援するプログラムである。このプログラムは、浮体式洋上風力発電や波力・潮力発電などの海洋再生可能エネルギーの世界的な拠点を同港に創出することを目的とし、地域経済に年間7,350万ポンドをもたらすと期待されている。その資金は、the Swansea Bay City Deal (スウォンジー・ベイ・シティ・ディール: ウェールズ南西部の経済発展と雇用創出を目的とした最大13億ポンドの投資プロジェクト。シティ・ディールとは、国が地方に特定の権限と自由を供与し、地域の経済成長支援、雇用創出、地域プロジェクトへの投資を支援する仕組

み) と欧州地域開発基金 (the European Regional Development Fund) から、あわせて6,000万ポンド (96億円、160円/ポンド) の支援を得ている。

同港の担当者は、このプログラムについて、英国のネット・ゼロへの移行を支援する重要な役割を果たすとともに、ケルト海からの洋上発電のサプライチェーンにおける英国企業の割合を高めるのに役立つとし、その将来性を強調した。



## 将来の展望

将来の展望について、同港担当者は「ミルフォードヘブン水路は、今後、四半世紀中に、水素、浮体式洋上風力、海洋エネルギー発電による新しいグリーン成長を促進し、大きな再生効果をもたらすこととなる。また、未来の世代のために質の高い雇用とキャリアを創出することによってこの沿岸地域を発展させるという、国家的に重要な役割を果たす目的がある。このビジョンを成功させることは、国、特に石炭などの化石燃料が段階的に廃止される英国のエネルギー安全保障にとって非常に重要である。さらに、高齢化が進み、限られた分野に過度に雇用を依存しているウェールズの中で最も子供の貧困率が高いペンブロークシャー州にとって、重要な役割を果たすものである」とコメントした。



## おわりに

ミルフォードヘブン港は、ミルフォードヘブン水路という産業クラスターの中核を成し、水素、浮体式洋上風力、海洋エネルギー発電による新しいグリーン成長を促進するなどして、脱炭素化に向けて主導的な役割を果たそうとしている。

また、ミルフォードヘブン港などで構成するコンソーシアムは、ミルフォードヘブン水路としても、浮体式洋上風力発電について、South Wales Green Freeportの指定を要請しており、このフリーポート (経済特区。関税や輸入不可価値税 (VAT) が免除となる。前述WW270参照) が認められれば、同港の発展とともに、さらなる英国の脱炭素化の進展が期待される。